

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 11 日作成)

小委員会名	地域文脈形成・計画史小委員会	主 査 名：木多 道宏 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：出口 敦
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画、建築計画、農村計画、建築・都市史の分野から先進的な研究を進めている研究者を委員に選定し、あるいは研究会に招き、「地域文脈」についての新たな研究体系の構築を行う。</li> <li>・都市や集落の歴史的事実を「再編集」する作業を通して、そこに継承されている空間性、社会性、計画の精神性、暮らし、記憶などの価値を読み解く。</li> <li>・積み上げられてきた価値の文脈を現代なりの方法で継承し、「進化」させていくためのデザイン論を展開する。</li> <li>・初年度は、「連続研究会」における議論と記録を基に、国内外における地域文脈の形成・継承の事例収集とそのしくみの解明、ならびにプランナーが果たした役割、生活文化の影響等に関する考察を行った。</li> <li>・2年度は、引き続き「連続研究会」を開催し、国内外における地域文脈の形成・継承、プランナーが果たした役割に関する考察を継続し、4年度の出版に向けて、都市の時代移行を捉える視点を整理した。</li> <li>・3年度は、東日本大震災に対する当小委員会からの貢献について議論を重ねた結果、「『地域文脈』の継承に向けたガイドラインの提言」を執筆し、復興計画の検討・策定にかかわる人々に届けることとした。このため、集落や震災復興について、特に空間組織やコミュニティの観点から研究実績のある研究者を WG のメンバーとして迎えた。</li> <li>・4年度は、震災対応のために遅れた連続研究会を完遂し、出版に向けた作業を行った。東日本大震災からの復旧・復興への提言を経験し、「地域文脈」の考察を再展開する必要性のあることを認識し、次年度に立ち上げる「地域文脈デザイン小委員会」で検討するべき課題を整理した。</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 主査：木多道宏 (大阪大学) 幹事：中島直人 (慶応大学)、土田 寛 (東京電機大学) 委員：宇杉和夫 (日本大学)、中野茂夫 (島根大学)、鶴飼 修 (滋賀県立大学)、阿部大輔 (龍谷大学)、青井哲人 (明治大学)、岡絵理子 (関西大学)、岡部明子 (千葉大学)、川島智生 (京都華頂大学)、黒田泰介 (関東学院大学)、篠沢健太 (工学院大学)、高村雅彦 (法政大学)、松山 恵 (明治大学) WG からの参画委員：加藤仁美 (東海大学)、安田 孝 (摂南大学)、清野 隆 (立教大学)、田中 傑 (東京理科大学)、稲地秀介 (摂南大学)、平田隆行 (和歌山大学)、山口秀文 (神戸大学)、山崎義人 (兵庫県立大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画理念研究 WG (日本ならびに諸外国を対象に、文脈を読み込んだ地域のマネジメントの理念・思想的根拠を整理)</li> <li>・地域形成史研究 WG (地域文脈の解明・事例収集と、「近代化」・「時代移行」の概念の考察)</li> <li>・地域マネジメント研究 WG (日本ならびに諸外国の都市・地域を対象に、文脈を読み込んだ地域のマネジメントの方法を検証)</li> </ul>	
2012 年度予算	350,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス： <a href="http://www.area-context.com/">http://www.area-context.com/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	4回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は 除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 連続研究会についてHPを更新した。
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	1. 東日本大震災からの復旧・復興に関する研究・活動と提言を行ったため、出版の予定が一年遅れたが、新たに得られた経験を基に、出版の構想を発展させるための準備ができた。
委員会活動の問題点・課題	1. 極めて多忙な委員が多いため、会合の日程調整が難しい。 2. 交通費を早々に使い切ってしまう、スカイプ会議を取り入れるなど、年度後半の運営に苦勞した。